

こうかい ひこうかい べつ 公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開
---------------------------	---

だい かい は ま ま つ し が い こ く じ ん し み ん き よ う せ い し ん ぎ かい かい ぎ ろ く  
**第5回浜松市外国人市民共生審議会会議録**

1 開催日時 平成30年8月1日(水) 午後1時50分から午後3時30分

2 開催場所 市役所 本館8階 第3委員会室

3 出席状況

委員 杉野 アドリアーナ (ブラジル)

李 善順 (韓国)

グエン ハ ラム (ベトナム)

バンバン ハリアント (インドネシア)

外山 弘幸 (知識経験者)

高畑 幸 (字識経験者)

事務局 佐藤 宏明課長 原川 知己課長補佐 徳田 夕利子

4 傍聴者 2人 (一般: 0人、記者: 2人)

5 議事内容 (1) ファミリーサポートの充実について  
 (2) 青少年の社会参加を促す取組について

6 会議録作成者 国際課 徳田 夕利子

7 記録の方法 発言者の要点記録  
 録音の有無 有 **無**

8 会議記録

1 開会・挨拶

2 議題

(1) ファミリーサポートの充実について

(2) 青少年の社会参加を促す取組について

高畑委員長：早速、第5回審議会を進めていく。今回は、「ファミリーサポートの充実について」「青少年の社会参加を促す取組について」この2つのテーマに関連した活動内容について、事務局から説明いただく。まず始めに、「ファミリーサポートの充実について」説明願いたい。

《事務局(徳田)から「ファミリーサポートの充実について」説明》

高畑委員長：説明いただいた内容について、意見等を伺いたい。

杉野委員：今、外国人の高齢者をサポートしている病院の先生たちがいる。病院に行くことができず日本語があまり話すことができない外国人の高齢者宅に、病院の先生と通訳と一緒に訪問し、病気のことや介護のことをサポートしている。

高畑委員長：日本人の医者が、医療通訳ができる人とともに困っている外国人宅に訪問しているということか。

杉野委員：その通り。日本語を話すことができない外国人や一人で病院に行かなければならない人、重い病気の人など、人によって状況はさまざまであると思うが、医者と通訳と一緒に訪問することで、病気のことでなく、さまざまな相談ができるようである。ポルトガル語やスペイン語、英語などに対応している。

ラム委員：ベトナム人もどこに相談したらいいかわからない人は多いと感じる。各委員に聞いたいが、例えば、各団体で決定した事項をメンバーに報告する会を開催しても、参加者は多くない。このため、発信した内容が多くの人に伝わっていないことが多い。各委員が所属する団体では、どのような手段で情報を発信し、メンバーに伝えているか。また、在住外国人が日本のことを知ろう、勉強しようという意識を持ってもらうためには、どういった伝え方が有効か。

杉野委員：ブラジル人を含め外国人のグループは、Facebook を利用している人が多いため、Facebook での告知は情報が早く伝わるため有効ではないかと感じる。あとは、口コミを利用するなど考えられる。

ラム委員：口コミで広がるのが一番いいのかもしれない。口コミを利用したいと思うが、情報を伝える集まりに多くの人に来ない状況。また、Facebook は確かに情報の伝達が早いかもしれない。ベトナム人も SNS も利用している人は多いと思われる。

高畑委員長：HICE(浜松国際交流協会)から来た情報を外国人のコミュニティの人がシェアすることで情報が伝わるのではないだろうか。

ラム委員：ただ、ベトナム人の中には、HICE を知らない人もいる。

すぎのいいん 杉野委員：HICEのFacebookに掲載されている写真は、私が説明を加えた上で、シェアしている。Facebookは見ている外国人が多いと感じている。

たかはたいいんちよう 高畑委員長：FacebookなどのSNSのツールがない時代は集まって情報を伝える必要があったが、今はツールが充実していることもあり、SNSを活用し伝えていくことが必要ではないか。今回のテーマである家族の困りごとに関する相談について、例えば、自分が健康である時は、介護等の情報を受け取ったとしても気に留めず、自身が困った状態になって初めて詳しい情報を知りたいと思う。こういった情報は、ゴミの捨て方など知らない困る情報とは質が異なるのではないか。健康な人もいつかは必要になる情報かもしれないため、相談窓口を知っている人を増やすことや各委員がどうやって他の人に伝えていくかなど、その情報が今必要ない人へ届ける方法を考えなければならない。さらに、相談者が日本語があまり分からない人であっても、相談できる体制があると良い。

すぎのいいん 杉野委員：高齢者や病気を抱えている人で日本語を話すことができない人は多いと感じている。そのような人が相談窓口まで行くことは考えづらく、また、インターネットを使っていない人が多いかもしれない。例えば病院内に、相談窓口などを紹介できるようになればいいのではないだろうか。病気を抱えている人は、病院に必ず通っていることから、パンフレットを設置するとか、説明会が病院で行われると良いと思う。協働センターでの説明会は、足を運ぶ人は少ないだろう。

たかはたいいんちよう 高畑委員長：病院の中にもメディカルソーシャルワーカーがいると思われる。また、病気とか体の具合が良くない人が、例えば、HICEなどには行かないけど病院には必ず行く。病院で社会福祉とか介護保険とかの相談ができるといいかもしれない。

すぎのいいん 杉野委員：メディカルソーシャルワーカーを知らない外国人も多いと思う。無料で相談でき、聞きたいことが気軽に聞ける場所があると良い。

たかはたいいんちよう 高畑委員長：やはり、病院と市がタイアップできるのがいいかもしれない。医者や看護師などの医療従事者に対し、外国人の患者が来院した時に介護などの相談は市が行っていることを伝えていく。また、病院の中に外国人が読むことができる言語で書かれているポスターが掲示されるといいのかもしれない。先ほどのすぎのいいんの発言からも、困っている人や高齢者などはインターネットをあまり見ず、市役所にもわざわざ行かないから、自宅への訪問がいいのではないだろうか。

ばんばんいいん 委員：困っている人は何もできず、知っていても自ら動く力がないかもしれない。やはり、ご近所とか周りに助けを求めるときもあるから、ご近所づきあいは大切にしないとイケない。また自治会での集まりが重要で、困ったことを話しあったりしている。自治会に年齢が若いメンバーが入り、積極的に動くことも必要ではないか。自治会の中では、子供会などのさまざまなイベントがあるが、人が集まるのは、楽しさが必要。参加しない時はお金を徴収するとの仕組み

みの場合、お金を払う人が増える可能性もあり、活動が行き詰ってしまう。あと、外国人の情報源は人それぞれと私は考える。

高畑委員長：やはり、困っている人だからこそ家庭訪問ができることが強みであり、医療従事者と通訳が訪問するのはとてもよいこと。このような人がおおくなることが望ましい。しかし、実際には、バンバン委員からの発言のように、町内会や自治会などの地域福祉が日本の地域には存在し、その中に外国人が入ることができるのがいいかもしれない。自治会や近所の人、周りの人たちとの付き合いがあり、そこから得られるさまざまな情報が困りごとの解決につながるのではないか。自治会のネットワークに入るには、ある程度日本語ができることが求められ、日本語が苦手な人は、エスニックネットワークで情報を得る必要がある。では、次のテーマに移るので事務局から説明願いたい。

《事務局(徳田)から「青少年の社会参加を促す取組について」説明》

高畑委員長：説明いただいた内容について、意見等を伺いたい。

李委員：多くのセミナーが開催されていることがわかったが、対象は青少年向けか、親向けか。

事務局(徳田)：高校で開催していることもあり、青少年を対象としているが、親の参加も可能。

李委員：子供を持つ親として、子供の将来のことなどを考えることが多い。ただ、子供の学年が上がるにつれて、子供が持っている情報と親が持っている情報にギャップがある。親が働き始めると親子の会話が少なくなり、自身の忙しさから、ある程度子供に任せてしまうことが多いと思う。だからこそ、親のためのセミナーをぜひ開催してほしい。また子供の受験についても国によってさまざま。日本は高校から受験することが多いが、韓国は、大学の受験が非常に重要。学費の問題等、日本の教育制度はわからないことが多い。中学生くらいの年齢になると親子のコミュニケーションより、友達同士とのコミュニケーションができており情報量も親では差があるため、子供が中学生くらいの年齢の時に、親にも教育に関する情報が得られると良い。

高畑委員長：愛知県の名古屋では、ブラジル人の保護者向けのセミナーがあり、学費の話や教育ローンの話などが知ることができると聞いたことがある。

杉野委員：浜松でも2016年からセミナーを開催している。主にブラジル人を対象としているが、日本語・英語・ポルトガル語に対応しており、これらの言語がある程度分かれば、参加可能。今年も11月4日にセミナーを予定しており、日本の大学が30校以上参加するだけでなく、銀行も参加する予定。昨年は、フィリピン人やベトナム人の参加者がいたようだ。他の委員にはぜひ多くの人に広めていただき、委員の皆さんにも参加いただきたい。また、10月には、来年高校に入る子供たちを対象に説明会を実施予定。親にも参加いただき、学費の話や高等学校の説明などを予定し

ている。定時制高校の仕組み自体もよく分からない親も多く、アルバイトをしたい子供たちには、定時制高校に通えば勉強との両立も可能であることも知ってもらいたい。当日は日本語とポルトガル語で対応予定。

高畑委員長：高校に進学するための制度は、国により異なる。韓国は、高校より大学に入るのが大変と聞いている。

杉野委員：日本は、高校に入るための入試があるが、この試験が難しい。試験に落ちたら仕事をするしかないが外国人は思っているが、定時制などそれ以外の方法があることを知ってほしい。あと、学校を途中でやめてしまった子供も、フィリピンナガイサやアラッセなどの NPO がいろいろな国籍の子供をサポートしていると思う。また、カラーズについて、大学生たちが中心に活躍しているが、非常に素晴らしい活動をしている。カラーズから影響を受けて、考え方を変えた子供や勉強を積極的に取り組む子供も出てきている。こういった若い人たちが自身の経験を紹介することが必要かもしれない。

ラム委員：カラーズの活動がすごくいい。現在働いている専門学校では併設されている高校も含め多くの外国人が留学している。外国人の学生は日本語を一生懸命勉強しており、日本の大学に進学したいと考えている人もいる。そういった人たちにカラーズを紹介したいと思っている。

外山委員：カラーズの活動は分かったが、活動資金はどのようにしているか。

事務局(原川補佐)：HICE のプロジェクトからスタートした団体であり、運営から企画まで関わっている。これ以外にも、団体独自の活動もあると思う。この就職応援セミナーも市からの委託事業で HICE から任された事業である。

外山先生：このキャリア支援事業について、2016年度から始まったばかりではあるが、手ごたえは感じているか。

事務局(原川補佐)：青少年の状況が分かったことも一つの進歩、働きながら定時制高校に通う子供が多く、途中でやめてしまう子がいることも分かったがこのような子供たちに日本人と同じような進路に進めるようにするためにはどうしたらいいのか、関係者とのネットワークができたことも一つの進歩と考える。ただ、確実に就労に結びつけるにはどうしたらいいかについては難しい面があるが、実態を知ることができただけでも前進ではあると思っている。

事務局(徳田)：先日開催した仕事発見セミナーに参加いただいた高校の先生からは、次年度はぜひ参加したいとの声もいただいております、これも進歩かなと考えている。

李委員：杉野委員から多くの情報を伝えてくれたが、そういった情報も広げたいと思っている。

高畑委員長：ブラジルコミュニティの中では既に多くの情報があり、これをブラジル人以外の人に広げていくことが必要かもしれない。私から一つ、神奈川県で一昨年作られた子育てに関するチャートを紹介したい。このチャートは時系列的になっており、この時期にこういった手続きをしましよとといったものがチャートになっている。イラストも多用されているし、いろいろな言語で書かれているから理解しやすい。実際にはさまざまな手続きがあるが、細かく書くのではなく、流れを伝えていることから、受け取った人もイメージしやすい。こういった流れが分かる情報が重要。一つ目の話題で、相談に関する情報は、この神奈川県が作成したチャートの続きがあると良いのかもしれない。先ほど説明いただいたくらしのガイドは情報量が多く、見ただけで疲れてしまう。概要が分かり、イラストなどを利用し分かりやすくなっているものがあると良い。

ラム委員：口コミで広がる情報の正確さがわからないため、こういったチャートはすごく便利。

事務局(徳田)：詳しい説明資料についても多言語化は必要かもしれないが、概要だけでも多言語化されていた方がよいか。

ラム委員：その通り。例えば児童手当について、申請ができることもわからないし、気づいたときは申請期限を過ぎていることが多い。細かいことは他の人に聞くこともできると思うが、流れを知ることが一番重要。説明する側も楽だと思う。

高畑委員長：これまでの議論をまとめる。1つ目の相談に関することについて、高齢者や障がいを持つ人、病気を抱えている人を見守る人達のネットワークづくりがあると良い。キャリア支援事業では、関係者の協議会ができたとの話があったが、同じように、これから高齢化が進展するので、同様に見守りのネットワークがあるといいかもしれない。また、病院の中で、介護や生活保護に関する多言語での情報提供があるとよいとの話、バンバン委員からの発言にあったが、自治会を通じて地域の福祉のネットワークにつながるということがよいこと。2つ目のテーマについて、関係する団体のネットワークができたことがよいこと、また、カラーズの活動が素晴らしいこと、一方で、親が参加できる進学説明会があるが、知られていないことも多く、知らせるにはどうしたらいいかといった意見、ブラジル人のコミュニティがもつ情報をどういった形で他の外国人に広げていくか、といった意見がでた。今日はここまでとし、事務局にお返しする。

《事務局からの連絡事項》

### 3 閉会